

# 農山村の地域資源を次世代に

## 『都市と農村をつなぐボランティア活動』

# とちぎ 夢 大地応援団



【第1回】7/29

←暑い中、初めての草刈りやバテ気味になりつつ頑張りました。

昆虫や水路の生き物の観察→子供達の目が最も輝いた時でした。



【第2回】9/30

どしゃぶりの雨の中、大奮闘でした。



小松菜の種まき→



一般の団員→に混じって、水路の清掃

平成19年度

### とちぎ夢大地応援団ジュニア育成活動の報告

未来を担う子供達に農業や農村が果たす役割について関心を持ってもらうため、小学生とその家族による農村の農地保全活動や農業体験を行いました。

内 容 小松菜栽培、田んぼの草刈り、播種、収穫  
ホタル水路の清掃及び自然観察会  
親子での郷土料理づくりと試食会

開催日 7月29日、9月30日、12月9日の3回

場 所 鹿沼市中粕尾「和田用水ホタルの里」

【第3回】12/9



←自分でまいた小松菜を収穫(たくさん持ち帰りました。)

自分たちで作った食事  
お父さん、お母さんと一緒  
でおいしさも格別でした。



↑地元のお母さん達に教わりながらこんにゃく作りに挑戦

# はばたけ夢大地

## 第4号

2008/3

とちぎ夢大地応援団事務局  
(財) 栃木県農業振興公社  
栃木県農政部農村振興課

# とちぎ夢大地応援団活動の取り組み地区から

## —はじめて取り組んだ地区の状況から—

### 【那須塩原市関谷地区】

9月2日、応援団員と地元関谷上の内むらづくり推進協議会の方達総勢51名が集結し、親水水路の除草及び周辺土手の草刈り作業を行いました。当日は心地よい気候で、作業も予想以上にはかどりました。



延長数百メートルにも及ぶ親水水路は、ノビエなどの雑草が繁茂し、重労働であったり細かい作業であったりと、なかなか大変な作業となっていました。約2時間半の作業でしたが、51名での作業は予想以上の成果となり、参加者一同数の強さを改めて認識しました。

←ノビエの繁茂する水路の草刈り

#### \* 県内初の会費制による交流会は大成功

作業終了後は、将来の都市農村交流活動を見据えて、初めて会費制による交流会が行われました。地元の加工組合の方達自慢の手打ちうどんや煮物などが食べきれないほど出され、応援団員と地元の方々のなごやかな交流会となりました。

#### \* 豊富な資源を活かした今後の交流活動に大きな期待

当地区は、そばのオーナー制や観光ジャガイモ掘りといった実績もあり、また、協議会員の中には、りんご園を運営している方もいます。



盛り上がった交流会

今回の活動を機に地域内での十分な話し合いにより、これらの豊富な資源を活かした周年オーナー制への取組みなど活発な都市農村交流が展開されることに大きな期待がよせられます。

### 【茂木町小貫地区】

やや肌寒さの感じられる11月28日、応援団員33名と地元「小貫焼森の里づくり協議会」の方達総勢60名での作業となりました。

20年間利用されていなかった競走馬の放牧場跡地を有効活用しようと、4年前から地元住民により桜の木を植栽するなどの活動を行ってきましたが、用地が4haと広大なため、馬場だった外周部については、手つかずの状態でした。

雑木、篠竹などが繁茂し、非常に難関な作業で、当初は3～4年がかりの大仕事と思っていましたが、参加者が汗だくになって頑張った甲斐があって、あと1年で何とかかなりそうなところまで進んで、地元の方達も大助かりと喜んでいました。



難関をきわめた馬場跡地の整備



#### \* 交流会で盛り上がる

活動終了後は、地元「小貫焼森の里づくり協議会」の皆さんの好意で、そばの早食い競争などのほか、けんちんそばが振る舞われました。また、古口茂木町長さんも駆けつけてくれて、参加者も地元の方達も大いに盛り上がりました。

←盛り上がったそばの早食い競争

#### \* ミニ道の駅との連携で貴重な財産を活かした独創性のある都市農村交流を

放牧場跡地の整備は、あと数年かかると思いますが、他の地区にはない広大で貴重な財産です。この4月末にオープン予定のミニ道の駅（さかがわ交流館〔仮称〕）と連携して年間を通して都市農村交流活動が出来るよう、長期的な計画を立てて活動すれば素晴らしい地区になるでしょう。皆さんも是非、一度訪れてみてください。

## — 継続地区の状況から —

### 【塩谷町羽谷久保地区】 …2年目を迎えたホタル水路の再生活動

2年目を迎えた当地区の活動は、9月9日に実施されました。当日は、応援団員24名と地元の方達総勢44名が参加し、昨年整備したホタル水路とその周辺環境整備を行いました。昨年の作業は、土砂で埋まった水路の整備で、これまでの活動でもかなりきつい作業でしたが、今年は、昨年の活動のおかげで、水路内の清掃は比較的順調に進み、下流の水路周辺の雑木剪定作業も行いました。

また、参加者の団結を強めるため、看板に手作りで「**船生ほたるの里**」の名前も入れました。

作業終了後は、参加者全員の熱い思い（ホタルよ来い。）を込めて「**カワニナ**」を放流しました。

#### \* 芽生えた地域間交流

今回の活動には、那須烏山市国見棚田保全組合の会長さんも参加してくれました。

そのお礼の意味も込めて、12月初旬には、羽谷久保地区の方達20名が国見地区を訪れ、ミカン狩りをはじめとした交流を深めました。今後の夢大地応援団の方向性を考える上で大いに参考になると思いますので、実施地区の皆さんも、他地区の活動に参加されてみてはいかがでしょうか。



上段：ホタル水路の整備活動  
下段：カワニナの放流

### 【茂木町河又地区】 …3年間の活動で夢が現実に

活動3年目を迎えた当地区の活動は、12月2日に実施され、昨年からの整備を始めた見晴台周辺への桜やあじさいの苗木を植栽しました。

応援団員と地元の方達総勢40名での作業でしたが、子供連れの方もいて、和気あいあいのうちに作業が進みました。

12月初旬の気温は汗で湿った体にはやや冷たさを感じ、休憩時間に地元の方が落ち葉や枯れ木を燃やして作ってくれた焼き芋に、つい、手が出てしまいました。



見晴台での苗木植栽作業



#### \* 美味しかったあじ彩ランチ

作業終了後は、地元の農村レストラン「虹色の里あじ彩」の皆さんの協力により、野外での昼食会（有料）となりました。

棚田米のごはん、原木しいたけのフライ、みそ汁など全て地元の食材を使った料理で、参加者にとって、周辺の風景と合わせて最高のごちそうでした。

#### \* 疲れも吹っ飛んだ野外での昼食会

#### \* 成果があった活動、今後の地域活動に活かそう

当地区は、茂木町の最北端に位置する集落で、条件的にはあまり恵まれていない地区でした。それが、「条件の悪いところが良いところ」との信念を持って、むらづくり事業で農村レストラン「虹色の里あじ彩」を立ち上げ、そして、夢大地応援団活動も取り入れ、活発な地域活動を展開しています。その成果もあり、昨年暮れには林道も開通し、道路事情も良くなりました。

数年後には、春は桜、6月はあじさい、そして秋には紅葉と素晴らしい里の彩りを楽しめます。地域の方々が、これまでの活動を一層発展させていってほしいと思います。

皆さんも、是非一度訪れてみてください。必ず、また行ってみたいくなる地域です。

# とちぎ夢大地フォーラムに720人が集結

さる2月6日、栃木県教育会館において、「豊かな農業・農村を子供達に」をテーマに『とちぎ夢大地フォーラム』を開催しました。

当日は、とちぎ夢大地応援団員や活動受け入れ地区の方々をはじめ、農地・水・環境保全向上対策に取り組む土地改良区関係者、一般の消費者、市町職員など720名という大勢の方が参加されました。

第Ⅰ部では、福岡県でNPO法人「農と自然の研究所」を主宰している 宇根豊氏から、「農の扉を開けよう」と題して講演がありました。「稲約3株がごはん一杯分で、オタマジャクシ30匹を



農業の役割、大切さを熱く語る宇根さん

育てる」、「農業には所得にならない価値がある」など参加者もつい引き込まれてしまうような興味深い話をいただきました。

第Ⅱ部では、先進的な取り組み事例として4団体から発表があり、とちぎ夢大地応援団の関係では、①宇都宮白楊高校農業クラブから、茂木町小深地区の棚田再生を通じた地域住民と都市の消費者との交流について、②宇都宮大学サークル「さとびと」から、夢大地応援団活動や棚田オーナーに参加して得た喜びなどについて発表がありました。

高校生や大学生といった若い人の活動が、農村の人達にどれほど元気と張り合いを与えてくれているか、参加者も自分たちの活動に希望を得たと思います。

今回のフォーラムは、県内各地で展開されている地域資源の保全・向上活動や環境に配慮した農業への取り組み、農業・農村の果たす役割が都市住民にとってどれほど重要なことか、農村と都市側の住民が一緒になって考え理解し合う場となりました。



↑宇都宮白楊高校農業クラブの事例発表



←宇都宮大学サークル「さとびと」の事例発表

## 今後の応援団活動活について考える

とちぎ夢大地応援団活動も、モデル的に開始してから丸5年が経過し、その間実施地区も10地区、また応援団員も420名まで拡大しました。中にはオーナー制等の都市農村交流活動に発展した地区もあります。活動を継続・発展させてきている那須烏山市国見地区の活動内容を参考に紹介します。

### 【国見地区の活動内容】

国見地区では、「日本の棚田100選」に選ばれた国見の棚田の保全のため、宇都宮大学や民間の製薬会社と連携したり、他地区の応援団活動に積極的に参加し地区同士の交流を図るよう努めています。

また、休耕地を活用しそばのオーナー制も開始しました。地域の方達のご苦勞は大変だな～と想像はつくと思いますが、それでも、年々、地域の活性化が進み、苦勞以上の成果が発揮されています。

皆さんの地区でも、自分たちの地域にあった手法を工夫してみたいかがでしょうか。

事務局 (財) 栃木県農業振興公社

〒320-0047 栃木県宇都宮市一の沢2-2-13

TEL 028-648-9511 FAX 028-648-9517

栃木県農政部農村振興課

〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20

TEL 028-623-2334 FAX 028-623-2337